

久米島町の 5歳児健診から就学まで のフォロー体制

公立久米島病院 小児科 渡辺 幸

久米島町について

位置：沖縄本島の西100km

交通：沖縄本島まで船で3時間半、航空機で30分

人口：6850人 年間出生数：約60名

保育園（0～4歳児）：5園、幼稚園（5歳児のみ）：2園

小学校：5校、中学校：2校、高校：1校

診療所：1カ所、有床病院：1カ所（小児科1名）

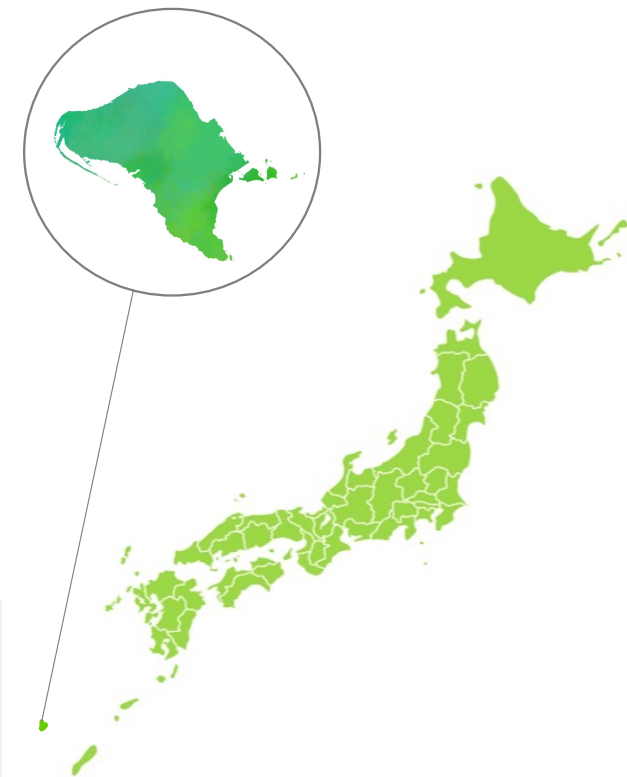
発達支援体制)

福祉：親子支援事業（子どもみらい課）、児童発達支援事業所（2カ所）

医療：発達外来／心理外来（当院）、療育外来（東京八王子より月1回応援）

療育巡回相談事業（沖縄県立南部療育センター）

中規模 / 孤立型離島



本日の内容

1. 久米島町の5歳健診について
2. 5歳児健診後のフォロー体制
3. 就学前支援事業／幼小移行支援
4. 5歳健診開始後の変化

5歳健診を始めた背景

3歳健での介入の限界

4-5歳児の集団生活の困り感

就学时健診の大変さ

小中学校の不登校・二次障害

福祉
の困り感

教育
の困り感

教育・福祉・医療
の「定例会」

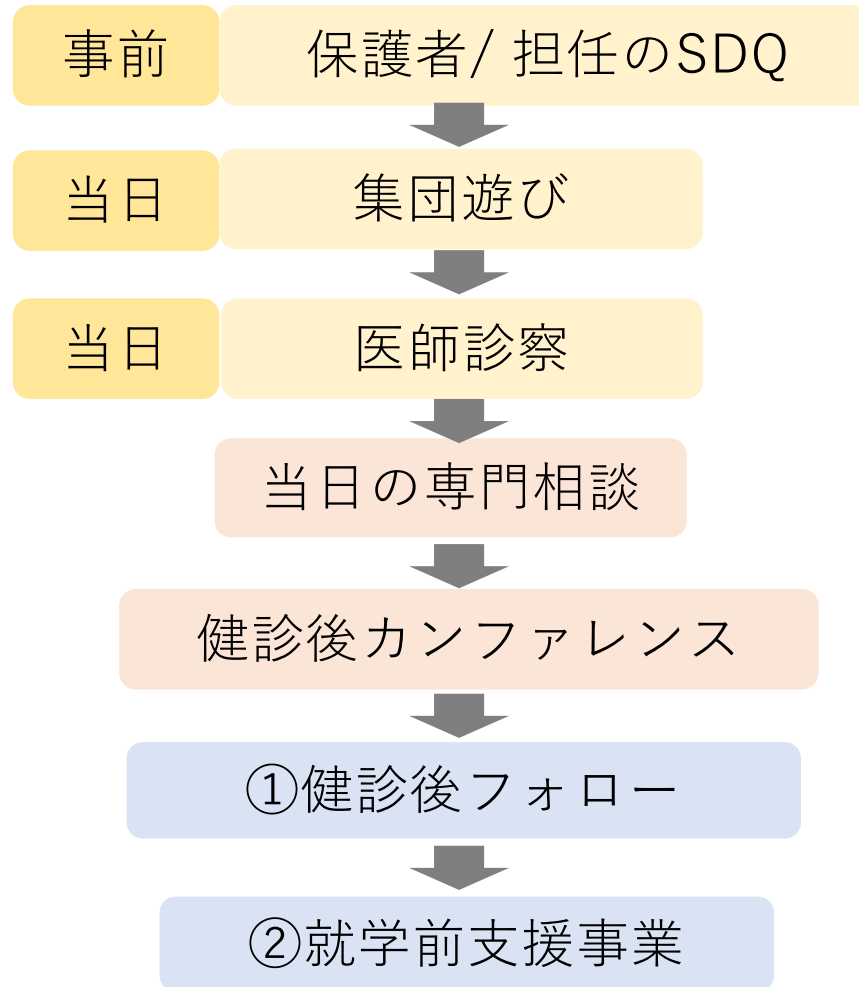
<親子支援事業>
保健師、臨床心理士、
小児科医



2019年度～
◎5歳児健診
◎就学前支援

5歳児健診の概要

- ・方法：集団健診
- ・健診回数：年3回
- ・対象：5歳になる学年
- ・対象人数：20-25名/回
- ・診察医師数：2-3名/回



5歳健診 ～ 事後フォローで大事にしていること

1、気づいてもらう

- 親の気づき、周囲の気づき

2、丁寧につなげる

- 誰かと繋がる
- どこかで繋がる

保育園と保護者のSDQを提示

親SDQ結果

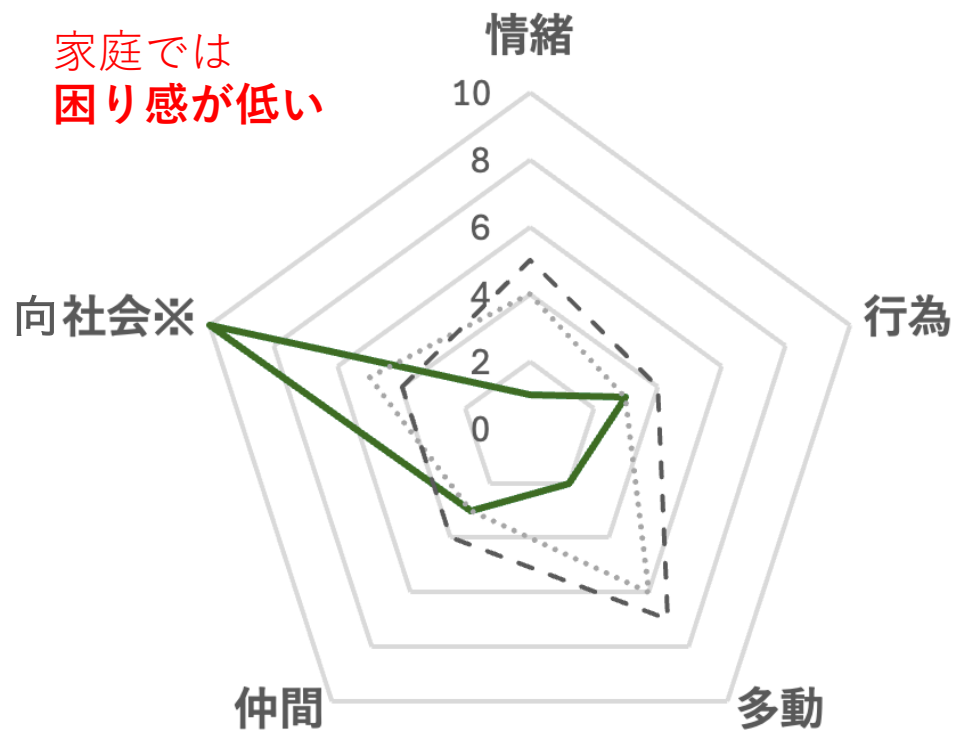
気づいてもらう

担任SDQ結果

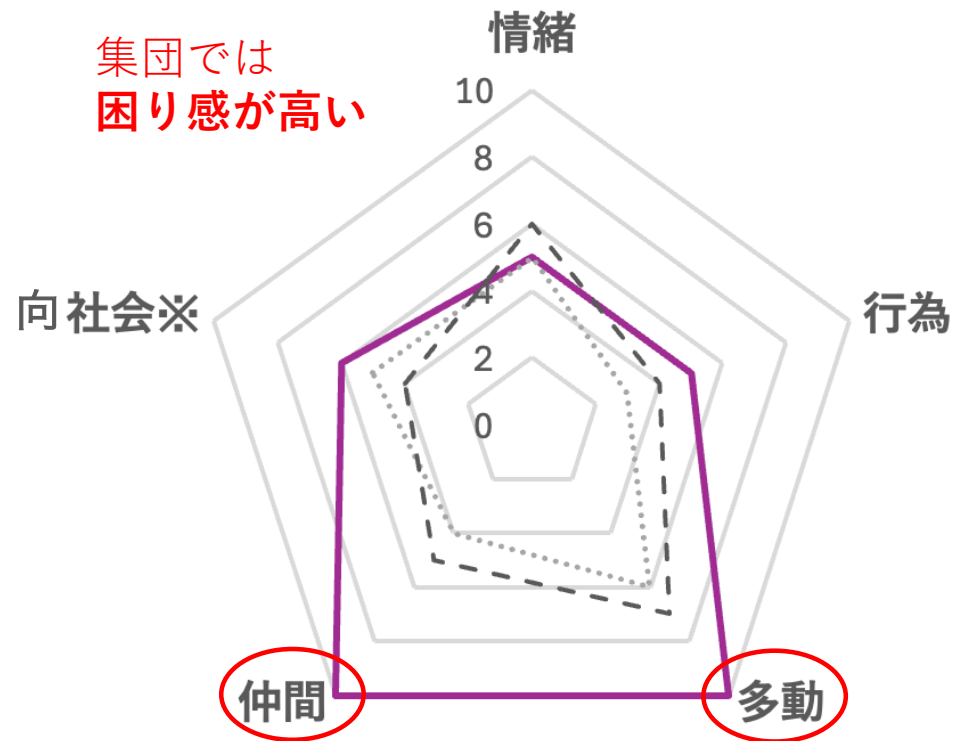
——親境界 ---異常

——担任境界 ---異常

家庭では
困り感が低い



集団では
困り感が高い



※「向社会」のみ点が低い方が困り感が高い

保護者への伝え方の工夫

丁寧につなげる

< 結果の共有 >

SDQ (保護者・園)

集団面接

医師面接

追加インタビュー

保護者の困り感

< 特性・傾向性の共有 >

ADHDタイプ：「好奇心旺盛で考えるより行動が先に出てしまうタイプ。同じ失敗を繰り返しやすくわざとではと思われやすいかも」

ASDタイプ：「マイペースで興味のあること・ないことの差が大きそう。1人で過ごすのが上手だが、集団に合わせている時間が長いと疲れやすいかも」

軽度知的発達症：「ゆっくりなタイプで、ルールや長い文章の理解が少し苦手。集団の中では実はわからないことが多くて不安かも。」

その他 (DCD, 場面緘黙, チック)

< 健診の意義の説明 >

- ▶ 5歳健診は就学前の早い段階で発達の特
性や得意・不得意に気づいて、就学に必要な準備をしていくための健診。
- ▶ 発達評価を行い特性にあった関わり方を
学んだり、就学に備えた療育を行なうこ
とができる。

「ぜひお願いします」

「もう少し様子見ます」

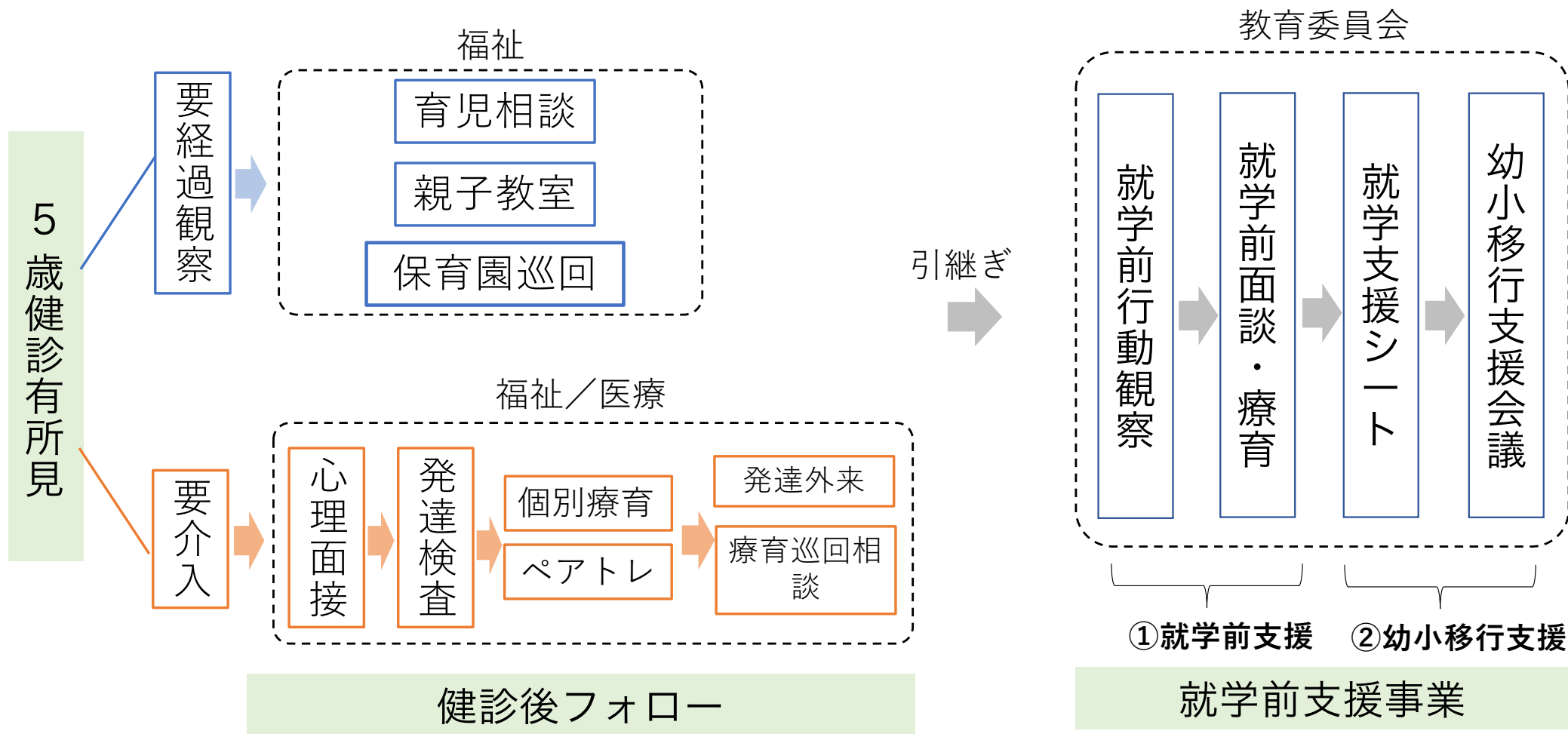
精査・介入

要経過観察

本日の内容

1. 久米島町の5歳健診について
2. 5歳児健診後のフォロー
3. 就学前支援事業／幼小移行支援
4. 5歳健診開始後の変化

5歳健診 ～ 就学後までの支援体制



タイムスケジュール

就学 2 年前 (保育園 : 年中)

就学 1 年前 (幼稚園 : 年長)

5月 5歳健(4-7月生まれ)

6月 発達検査

8月 ~ 12月 個別療育

9月 5歳健(8~11月生まれ)

10月 発達検査

12月 ~ 3月 個別療育

1月 5歳健(12-3月生まれ)

2月 発達検査

4月 ~ 7月 個別療育

5歳児健診関連

子ども未来課

5月 保護者アンケート

6月 行動観察

7月 就学前面談

8月 発達検査・結果説明

10-2月 個別療育/小集団療育

12-2月 就学支援シート作成

6月 幼小移行支援会議

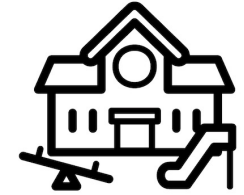
教育委員会

幼稚園~就学

<5歳健診後 要経過観察>

担当

福祉課（現：子どもみらい課）



目的

児の特性や得意/不得意について保護者と共有し、就学前支援につなぐ

内容

- 保育園の巡回訪問（保健師、心理、ST）
- 育児相談（心理）
- 親子ひろば（ST,OT,心理）

< 5歳健診後 要介入 >

担当

子どもみらい課 / 医療機関

目的

発達や困難さについて評価し、保護者や支援者と共有。必要な介入を一定期間行う。

内容

- ① **心理面接・発達検査**：新版K式、PARS等（病院／心理士）
- ② **個別療育**（行政・病院／特別支援教諭・心理士）
- ③ **ペアレントトレーニング**（病院／心理士）
- ④ **発達相談**（病院／小児科医）
- ⑤ **療育相談**（行政・専門機関：ST/OT /PT）



本日の内容

1. 久米島町の5歳健診について
2. 5歳児健診後フォロー
3. 就学前支援事業／幼小移行支援
4. 5歳健診開始後の変化

「就学前支援事業 ①就学前支援」

5月) 保護者アンケート



多面的なアセスメントシート

6月) 幼稚園行動観察



設定場面の観察
観察者：心理士、医師

7月) 就学前相談



保護者と医師

10~2月) 個別・小集団療育



「巧緻作業、形や左右などの弁別、SST等」
実施者：心理士・特別支援教諭

8-9月) 発達検査



「WISC-V、PARS、ADHD-RS等」
実施者：心理士



保護者アンケート／行動観察

➤ 保護者アンケート

- 生活／言語・認知／社会／運動 に関するチェックリスト。
- 面談希望の有無、自由記載欄

➤ 行動観察

- 観察者：医師および心理士（半日）
- 内容：「自由遊び／工作／話を聞く／体を動かす／人物画」の各活動について観察を行う。
- 行動観察後に幼稚園教諭と情報交換を行い、園から追加での面談案内を行う。

就学前面談／発達検査／療育

➤ 就学前面談

- 面談者：医師（1人20-30分）
- 内容：保護者の困り感や行動観察の様子を共有。支援事業の内容伝え希望を確認。面談結果を教育委員会・幼稚園へ共有

➤ 発達検査

- 実施者：臨床心理士
- 内容：WISC-V、PARS-TR、ADHD-RS、DAMグッドイナフ、SM社会

➤ 個別/小集団療育

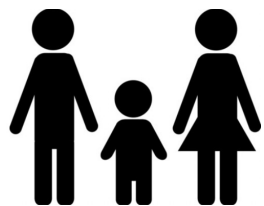
- 実施者：臨床心理士、特別支援教諭
- 個別療育：微細巧緻作業、形や左右などの弁別、SST 等
- 小集団療育：個別療育後に対象児を選び、就学前の数回実施

「就学前支援事業 ②幼小移行支援」

就学支援シート

< 12 - 2月 >

幼稚園主体で
就学支援シート作成



作成者：
幼稚園教諭、保護者
監修・コメント：
心理士、医師



< 3月 >

就学支援シートを
小学校に提出



幼小移行支援会議

< 5 - 6月 >

就学支援シートを元に
各小学校で情報共有会議



参加者：
幼稚園教諭
小学校教諭
保健師、教育委員会
心理士、医師

就学支援シート

楽しい学校生活のために

<令和7年度 就学支援シート>

子どもにはさまざまな個性があり、一人一人希望に満ちた豊かな可能性があります。

その可能性を大切に伸ばしていくために、小学校への入学に向けて幼稚園・療育・医療機関や家庭などで大切にしてきたことや、小学校に伝えたいことを教えてください。お子さんが豊かで楽しく充実した学校生活を送る事ができるように、お子さんに必要と思われる支援や配慮について、みんなで一緒に考えていきましょう。

※就学支援シートはお子さんの支援のため学校内で使用する目的で作成されたものであり、目的外の使用はいたしません。



(作成日：令和 7年 月 日)

フリガナ お子さんのお名前		生年月日	令和2年 2月19日	性別	男・女
保護者の方のお名前		続柄	父・母		
連絡先	住所				
	電話番号				
卒園保育園：	在籍幼稚園：	就学先小学校：			

<成長・発達の様子>

☆家庭や幼稚園での様子や工夫していること、伝えたいことなどを自由にご記入ください。

☆全ての欄を記入しなくても結構です。

項目	内容特に配慮を要する項目に右欄に記入	保護者	園担任	手立て配慮案
健康 身体	①健康・身体の状況 ②粗大運動 ③手指の器用さ ④動作のまね	レゴ・ブロックなどは器用に作れるがハサミ、色塗りが雑だったりします。	①基本的に良好である。 ②参加はするものの、体全体の動きがぎこちなかったり、バランスを取るのが苦手である。動きを取得するまでに時間がかかる。 ③ハサミで曲線を切るのが難しかったり筆圧が弱く、持ち方が安定しない。 ④動きによって出来ること、出来ないことの差が激しい。模範を始めるのが遅れたり、一部の動作しか出来ないこともある。	②③④無理強いはせず、本児が出来る範囲で行って貰い、出来ることをたくさん褒め、自信に繋げていくようにしていくことで出来るようになり成功体験や達成感に繋げていくようにしている。 結果のみ目を見て、その過程をたくさん褒め、本児のやる気へと繋げる。

日常生活	人とのかわり	動作しな山木ないしじりぬ。	
①食事 ②排泄 ③着替え ④片づけ	①人とのかわり ②集団への参加 ③聞く・話すこと ④指示やルール理解	声を掛けの方が早い	①②スムーズに行うことができる。 ③気が散り、声かけをされることが多い。 ④遊びの後の玩具の片付けは出来るが、自分の所持品や、学用品の整理整頓は苦手である。
		まだ、言葉が幼かったりしますが、自分の言葉で伝えてはくる。おしゃべりが一方的です	①②③④見通しボードを活用したり、タイマーを使用。また、「始まりと終わり」の時間を明確に知らせると意欲的に取り組む。全体指示の後に個別で声かけを行う。お当番活動など、役割があることで、集団に意欲的になる。

項目	内容配慮要する項目に☑	保護者から	幼稚園から	手だて・配慮の案
興味 関心	①性格の特徴 ②好きなこと ③苦手なこと ④文字・数への興味	マイペースで基本ゆっくりです。リズム系が苦手かと思えます。	①優しく、マイペースである。 ②戸外遊びや虫取りが大好きである。反面「こだわり」や「限定的な興味」がある。 ③予定や環境の急な変更に対応することが苦手 で不安を感じやすい。 ④遊びでカードゲームを取り入れたりしながら興味を更に広げている。	②こだわりを無理にやめさせるのではなく、それを活かしつつ、集団の遊びの中や、生活面で成功体験を積めるような環境を整える。 ③具体的で分かりやすい言葉かけ、視覚的な教材を取り入れている。予定の変更がある場合は、早めに理由を丁寧に伝え、イメージがつかめるようにする。
その他	①音など感覚の過敏性 ②就学後も引き続き配慮してほしいこと ③その他伝えたいこと		①なし ②③慣れない環境での過敏さや不安が強まる場合があるため、落ち着ける場所や、本児と相談をしながら好きな物（園で使用していたもの、玩具）などを用意しておくことと気持ち安定してくると思えます。	
支援機関		発達外来/公立久米島病院小児科 心理士外来/公立久米島病院	親子支援事業（療育）/福祉課 療育巡回相談/福祉課 その他（ ）	

<記載者>

<専門機関からのコメント>

心理士・医師からのコメント

心理士：社交性が高く、他者と仲良くなることは比較的早い一方で、人や物への興味が広がりがやすく、集中が持続しにくい様子が見られます。また、苦手意識が強く「できない」と感じることで取り組みをやめてしまう傾向があるため、ハサミや積木などの課題はスモールステップで設定し、過程を丁寧に認めながら経験を積み重ねていく関わりが有効と考えられます。園で行われている見通し提示や声かけの工夫を継続することで、小学校生活への移行もよりスムーズになると考えられます。

記載者：心理士

医師：好奇心旺盛で社交的な性格ですが、一つの物事、特に興味が高い物事に集中して取り組むことは苦手です。授業中に注意がそれる際には、さりげない声掛け等で注意を戻すなどの支援が有効そうです。会話においては、言いたいことを一方的に言うことが多いため、「順番に話す」ことを視覚的に示す（マイクをもつ、話している人のところにコーンをおく等）手立ても有効かと思えます。また、手先の細かい動きや、体の複数数を協調して運動などについては、スモールステップで行っていただけるとよいでしょう。通常学級での配慮でも困難さが増えるようであれば、教育や医療への相談を促してください。

記載者：医師

※本シート以外の資料（専門機関独自の様式等）がありましたら添付してください。

幼小移行支援会議のメリット



1、小学校担任の負担感の軽減

2、支援者へのフィードバック

3、次の支援ステップを考える場

本日の内容

1. 久米島町の5歳健診について
2. 5歳児健診後のフォロー
3. 就学前支援事業／幼小移行支援
4. 5歳健診開始後の変化

5歳児健診開始後の変化

< 開始前 >

3歳児健診からの
繋がらなさ



< 開始後 >

3歳健で経観となった児の多くが、5歳健診で介入・支援につながる

就学時健診に
時間がかかる



就学時健診で精査となる児はこれまでの1割程度に減少し、時間・参加者の負担が激減。

二次障害が多い



- 担任の特性理解や合理的配慮があり受容的に対応。
- 困り感が増大した場合の早期介入がされやすく、二次障害による受診は著しく減少。
- 小学校1年生の不登校相談はほぼなし。

課題

1. 人材確保

- 行政で発達検査や療育を実施できる専門職の安定した確保

2. 関係者間の情報共有の方法

- 福祉／教育／医療の情報共有が必須
- 共有の方法、ツールなど模索中

3. 担当者の業務負担

まとめ

5歳健診で「気づき」その後「丁寧につなぐ」ことで、その後の支援・介入の土台を作ることができる。

幼稚園から小学校への丁寧な引き継ぎは、支援者のスキルアップや学校担任の負担軽減につながる。

小規模市町村では資源が不足するため、各機関で機能を補い合いつつ、最低限の支援体制を継続することが大事。